

北海之光

3月号 北海道教区報

どのような道を歩むときにも主を知れ
主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる

箴言3章6節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

150⁺th

「十字架を仰ぐ」

聖マーガレット教会牧師補

札幌キリスト教会協働執事

執事 エリサベト 三浦 千晴

このところ、下ばかり向いて歩いていました。

一月三日の夕方、自宅近くの坂道を下っていたところ、足を滑らせ転倒。右足の甲の骨を折ってしまいました。初めて骨折。まさに晴天の霹靂です。夫に救急病院に連れて行ってもらい、すぐに手当を受けましたが、歩行が困難になり、松葉杖を使用した生活となりました。慣れない松葉杖で両脇も痛み出し、しばらく痛みを耐えながらの生活を送りました。かつて教友が、「痛いから松葉杖を使うのはもう嫌だ。」と言っていたことを思い出しました。彼女が痛みを耐えながら過ごしてきた日々を思い出しました。「神様どうかこの痛みから私を解放してください。」彼女も長い年月の間に、一度はこう祈ったはず。ほんのすこしだ

け、彼女と祈りを共有できたように思えました。

しばらくは、何をすることも、どこへ行くにも、とにかく下ばかり見ていました。そうしないと恐ろしくて一歩を踏み出せなかったからです。するとある時から、歩きながらイエス様の「十字架の道行き」を黙想するようになりました。死刑を宣告され、刑場までの道のりを十字架を担いで歩いたイエス様は、痛みと苦しみのあまり何度もお倒れになります。地べたに這いつくばりながらも十字架へと近づいていきます。その姿を見つめる群衆や兵士たちの視線もまた下方に集まります。嘲りや憎しみ、恐れや苦しみに支配された視線は、下を向くものなのかもしれない、とふと思いました。

ウクライナやパレスチナなどの紛争地で続く戦いは、一向に収まる気配がありません。多くの子どもたちや弱い立場にいる人たちの命が、日々刻々と失われ続けています。地震を始めとする自然災害で、大切な人の命を失い、また日常生活を奪われ、途方にくれる多くの仲間たちがいます。その仲間たちが、現在もなお困難の中を生きざるを得ない状況にあるという現実を思う時、気持ちが塞ぎ、どんだん下を向いていってしまいます。

「主イエス・キリスト。あなたは尊い十字架と栄えある復活によって世界を救ってくださいました。わたしたちはあなたを礼拝し、賛美します。」私たちは、十字架の道行きの各留の始めに、このように祈ります。十字架を負って歩まれたイエス様は、やがて両腕を広げて十字架に釘づけにされ、高く上げられます。見せしめのために人目に付きやすい場所で、さらし者にされました。こうして初めて人々は、イエス様を見上げるようになったのです。イエス様が十字架に架けられ、死んで脇腹を槍で刺される時になつてようやく人々の視線は上を向く。その時になつてやっと人々は、天を仰いで祈ることができたのではないのでしょうか。

残される者たちのため最期の祈りを捧げた時、イエス様は天を見上げ、「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子に栄光を現してください。」と祈られました。イエス様の十字架と復活は、すべて神様の栄光をこの世に現すためのものでした。だから辛い現実を歩む時でも私たちは「主イエス・キリスト。信仰の弱いわたしたちを助けてください。勇気をもってあなたの道を歩み、神と人々への愛に生きることができまますように。アーメン」とただ天を仰いで祈るのです。その祈る視線の先には必ず、イエス様が地に残る弟子たちに祝福を与えながら昇つていかれた、あの天が広がっているはず。主に感謝。



―心の窓をひらく―

福音と私(二七八)

―今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか―

帯広聖公会信徒

ルツ 船 津 ともえ



【私の好きな聖句】

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」

(ヨハネによる福音書一四章六節)

ハレルヤ！ 主の御名を賛美します。

私は看護学生だった二〇才の時、クリスチャンの友人に誘われて初めて教会に行きました。神様は本当にいるだろうか。本当に信じる事ができるだろうか。という疑問を持ちながらも、その年、洗礼を受けました。結婚をして、三〇代で帯広に転居し義父母の所属する聖公会に移籍しました。夫が小児科を開業し、私も年子三人をかかえて主人と共に働きました。仕事があまりにも多忙で精神的



にも、肉体的にも疲れ果てて教会からは遠く離れていました。四二才の時、「母が肝がんの末期で、あと数ヶ月しか生きられないだろう。」と医師から告げられた、と電話がありました。当時は癌の告知は一般的ではなく、癌の末期の苦しみは看護師の私には耐えられないものだと思われました。「母をこのまま死なせてはならない。母にイエス様を伝えなければ。」と思い主に祈りました。「母の命は神様のものです。御手に委ねます。しかし、母の魂をお救い下さい。」と。急いで岩手の実家に帰り、母を教会に連れて行きました。母はその時、イエス様を信じて洗礼を受けて一ヶ月後、天に召されました。この事を通して私は、神様は生きておられる事、祈り

を聞かれる方である事を知りました。母が一粒の麦となつて死んで、死んでいたような私の信仰が生き返つたのです。母の死から二三年後、李司祭が当教会に着任しました。神様を求め続けていましたが漠然としかわかりませんでした。私は苦しみの中で神様を知りたいという魂の渴きを覚えて、李司祭の御言葉塾に出席して全ての学びを受けました。私達の信じている神様はどのようなお方であるのか。学べば学ぶほど御言葉の光が私の心の中に差し込んできて、扉が一つ一つ開かれるように聖書のみことばがわかるようになり、神様は今も生きておられる方なのだ。と解りました。「恐れてはならない。おののいてはならない。私はいつもあなたと共にいる。」と、み言葉で私の心を励まして下さる人格を持つておられる神様なのだ、という事を知りました。約四年間の奉仕を終えて李司祭は渡米しました。それからの年月は私にとって信仰の試練の時であり、苦しみの時でした。ある

朝、祈っている時に、「岸边に立つて眺めていないで沖にこぎ出さない。」というみ言葉が与えられました。それがどんな意味なのかもわからず、ただ聖書を必死になつて読み、祈り、み言葉の黙想を続けました。学んだことが本当にまちがっているのかどうかを確かめる為に、聖書から答えを探したのです。その結果学んだ事は、まちがっていないという事を確信しました。そして聖書は神の靈感によつて書かれた神様のみ言葉である、という事を信じて、聖書の事実を信仰によつて受け入れました。大町司祭が説教の中で、「パウロが三年間アラビヤに退いたのは、神様が忍耐を学ばせるためだった。」と話しました。この言葉聞いて今の私の苦しみは、忍耐を学ばせるための神様の御計画であることと知りました。「すべてのものは神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。」(ローマ一・三六) 二〇才で受洗して今年七五才になります。六三才で亡くなった母

の一回りも長く生きてきました。義母の和枝さんは、施設で一〇才を迎えて今は幼なじみのような顔になり健やかに生きています。今回、証しを書く機会を与えられて、私の信仰の軌跡をたどることにになり、私の人生の縦糸に信仰の横糸が組み合わされて、節目ごとに確かな神様の愛の鞭と杖の慰めを感じました。傷ついた葦を折ることもなく、くすぶり続ける灯芯を消すこともせず、倒れても起こして下さる神様。創造主であられる神様の恵みの大きさをとうてい知ることはできませんが、道であり、真理であり、命であるこの道を通つて、イエス様に近づきたい、と願い、祈り、ただ単純に素直に信じて残りの人生を生きて行きたいと思えます。

主に感謝します。
栄光が主にありますように

アーメン



常置委員会報告

第四回 二月一六日

《協議事項》

一、第八三(定期)教区会において未選出となっていた教区審判廷審判員の選出手続き

について確認をし、その作業に入ることにした。
二、函館聖ヨハネ教会より推薦のあった今年度の信徒奉事者について主教に推挙した。
三、復活前主日礼拝の司式を、今年度は、執事・信徒も行う

ことができるとするとの主教よりの諮問を受け、同意した。
四、教区諸役員の選出について協議した。
五、第八三(定期)教区会の決算報告における立替金の処



主教室から

今年、二度目の北海道の冬を過ごしています。今年には暖冬で大雪という長期予報が出ていましたが、その通りの冬です。

一度目の冬は、東北で生れ育った私でもさすがに驚く寒さと雪の多さ、また冬の生活の仕方の違いに毎日目を丸くしながら過ごしておりました。最初は面白がっていましたが、降り積もる雪の多さや凍った道を経験している内に、次第にこれまで経験したことのないレベルに圧倒され、家の窓を覆っていく雪の高さに恐れをなしていました。夜中

に除雪車の作業音を

聞くとありがたいとほっとし、二月頃には窓の外から降り続く雪を眺めては、「この雪が解ける気がしない。」と夫とつぶやく毎日でした。春に北海道に引っ越して来たにもかかわらず、春が再びやってくることに本気で懐疑的でした。

けれども、本当に雪は解けるのです。どんなに固く凍り、人の背以上に積もって先を見通せないほどの高さの街並みになってしまっただとしても、春の陽射しには決して敵わないのです。道民の方にとっては当たり前のことかも知れませんが、春にすべてが解けてゆく様子には私はひたすら心か

ら感動しておりました。

雪は必ず解けるのは真実だと知ったおかげで、二度目の冬は違ってきます。真実のおかげで自由な心持ちであり、同じ世界が違って見えます。信仰の基本を経験させてもらっています。

湖も川も、海さえも凍り、大地が深みまで凍るこの北海道に、もうすぐ春がやってきます。今眼の前に広がる雪や氷に覆われている世界が一層美しく見えます。途中ぐちゃぐちゃの時を経て、必ず春はやってきます。皆さんのところにも必ず春は訪れます。残りの冬の季節を主に守られ、ご無事に過ごされますように。

義 マリア・クレス 笹森 田鶴

堅信式受領

おめでとう

平取聖公会

サロメ

木村 詔子

二月二五日

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

四月二〇日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。どなたでもご参加ください。

司祭 ジョン・バチラー

一九四四年四月二日

司祭 宇田 梅太郎

一九五一年四月三日

主教 上田 一良

一九七二年四月五日

主教 天城 英明

二〇一〇年四月五日

伝道師 ルイザンドレスバチラー

一九三六年四月六日

司祭 荒砥 琢哉

一九三一年四月一三日

伝道師 田中 末吉

一九七八年四月一四日

伝道師 芥川 清五郎

一九二七年四月一五日

司祭 木村 信一

一九七八年四月一五日

司祭 小貫 安貞

一九七一年四月一六日

伝道師 白田 うめ

一九五八年四月一八日

伝道師 メリー・シエーン・オックスラド

一九二二年四月二〇日

伝道師 辺 泥 五郎

一九五四年四月二三日

司祭 山田 安間

一九二四年四月二四日

司祭 小貫 嗣夫

一九八一年四月二五日

伝道師 江賀 寅三

一九六八年四月二八日

伝道師 バチラー 八重子

一九六二年四月二九日

司祭 篠塚 長治郎

一九五〇年四月三〇日

宣教一五〇年実行委員会報告 (12)

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。二月二三日の小樽の黙想会を皮切りに、いよいよ宣教一五〇年のプログラムが始まっています。今回は、今後のプログラムについてお伝えします。まず、小樽から始まった黙想会は次回、四月二十九日(月)に釧路で開かれます。各教会に申し込み用紙が送られておりますので、ぜひご参加ください。参加の方には特別デザインの新バッジを差し上げております。なお、黙想会の申込書はほぼ同じフォームで作

成されていますので、お取り違えの無いよう、ご確認をお願いいたします。さらに黙想会の今後の予定ですが、第三回は六月一日に苫小牧で、第四回は八月に道北分區で、第五回は一〇月に網走で行われることが決まりました。近くなったら申込書が各教会に送られますので、参加をご検討くださいませ。

そして、宣教一五〇年の一環として「北海道教区宣教協議会」を開催することが決定しました。二回に分けて行われる予定で、第一回は一〇月一四日(月・休)に行います。第二回は二〇二五年の四月二十九日を予定しています。昨年山梨県の清里で行われた日本聖公会の宣教協議会を受けて、北海道教区のこれまでと

これからについて語り合う会にしていききたいと願っております。「宣教協議会」というと、「宣教が右肩上がりになる解決策」を決める会議のような



印象がありますが、そうではなく、規模が小さくなっている状況の中で、教会がどのように立ち続けていくのかを考

えていきたいと思っております。詳細は今後のお知らせをお待ちください。今後とも多くの企画をお知ら

せさせていただきます。お知らせを楽しみにお待ちしております。ではまた来月。

公 示

救主降生 2024年2月14日
日本聖公会北海道教区
主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴

下記のように人事異動を行います。

司祭 グレゴリー 松井 新世

2024年3月31日付けで新札幌聖ニコラス教会の協働司祭の任を解く。
4月1日付けで函館聖ヨハネ教会の協働司祭に任命する。

司祭 フランシスコ 飯野 正行

2024年4月1日付けで紋別幼稚園チャプレンに任命する。

司祭 アルバン 阿部 芳克

2024年4月1日付けで新札幌聖ニコラス教会嘱託を委嘱する
(嘱託任期1年)。

司祭 パウロ 内海 信武

2024年4月1日付けで平取聖公会嘱託、バチラー保育園嘱託チャプレン、及び新冠聖フランシス教会嘱託を委嘱する(嘱託任期1年)。

司祭 アンデレ 甲斐 博邦

2024年4月1日付けで深川聖三一教会嘱託及び深川あけぼの保育園嘱託チャプレンを委嘱する(嘱託任期1年)。



一九八〇年発行以来六五三号を数える。

青森県南の太平洋に面する八戸は、雪が少なく冬も太陽が降り注ぐ。一八九六年東北地方四番目の伝道地として開かれて以来、今年で宣教一七八周年。現在堅信受領者は二五名。一九三四年建設の木骨レンガ造りの礼拝堂は、一九七八年現在地に当時のまま移築された。二〇一六年宣教一二〇周年の記念事業として、聖堂・会館屋根の修復、記念誌の発行、一九三四年に寄贈されたリードオルガンの修復もなされ、歴史を紡ぐ音を奏でている。日曜学校新聞「ハッピーサンデー」は

八戸聖ルカ教会



一九八〇年発行以来六五三号を数える。



第五回 北海道教区

クララ 吉谷かおる

「チーム北国」は新年、一月二三日に全体ミーティング(オンライン)を開催しました。新体制の「チーム北国」はコア・メンバーに加え、四つのセクションを設けてメンバーを拡大し、「宣教協働」一〇名、「広報」七名、「組織」四名、「財政」五名の編成となっています。この日は四つのセクションに参加するメンバー全員が一堂に会し(画面上ですが)、「チーム北国」発足に至るまでの経緯、昨年の活動内容、各セクションが二〇二八年までに取り組む課題と時期などについて説明を聞き、共有しました。そして、

昨年一月の両教区教区会で可決された「ミッション・ステートメント」の読み合わせを行ったのち、参加者それぞれが率直な感想を伝え合いました。

最後に大町司祭から、セクションごとに①二〇二八年までのロードマップを一〇月までに考えてほしい②今年度の計画と予算を作成し三月に報告してほしい③対面でのミーティングを一回は実施してほしい、との要望が伝えられ、この教区再編の働きを聖霊の導きを信じて進めていきたいという笹森主教のお話をもって閉会となりました。国土の四〇%を占める北海道と東北の広い面積の中で、各々が出会うことにより、違う視点、歴史観、見識が与えられる恵みの時がもう始まっています。

各セクションでは、それぞれ月一回程度のオンライン・ミーティングを実施して活動を進めています。今後はその進捗状況のほか、行事などでの教区間の交流についてもお知らせしていきます。

北海道教区宣教150年記念聖歌

『ピッカ レラ モシ』

(美しい風の大地)
pirka, rera, mosir

〈1節〉

純白の大地 美しく おごそかに
先人の 愛と涙に 身をかがめ
〈リフレイン〉
私たちは ともに手を取り 進み行く
雪どけ水きらめく ピッカ レラ モシ

〈2節〉

新緑の大地 湧き水が 低みから
貧しさに 寄り添う神の いのち満ち
〈リフレイン〉

〈3節〉

風薫る大地 みことばの 種をまき
鐘の音に 神をたたえて パンを裂く
〈リフレイン〉

ハレルヤ



(宣教150年記念聖歌公募の作品を元に、実行委員会によって飯野正行司祭協力のもとに作られました。)

2024年度 教区役員一覧表

日本聖公会 北海道教区

委員(部)会名	選出者	長	委員・部員名
常置委員会	教区会	司祭 大町信也	司祭 下澤 昌、司祭 永谷 亮 大友 宣、小澤暢子、吉谷かおる
教区審判廷審判員	教区会	教区主教	司祭 松井新世、司祭 吉野暁生、 皆川洋美、小貫晃一 (任期：2027年11月定期教区会まで)
会計監査委員	教区会	古川義則	上村裕子
教区ハラスメント 防止委員会	常置委員会	司祭 木村夕子	志賀直信、糸田正博、横山光紀、大友愛美
管財委員会	常置委員会	橋本知樹	
建築融資金委員会	常置委員会	鈴木 康	教区事務所主事、財政部長
I T 委員会	常置委員会	司祭 永谷 亮	司祭 吉野暁生、横山光紀
北海道 M T S	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 松井新世
礼拝委員会	常置委員会	司祭 松井新世	丸山悦子、鈴木かほる
教区事務所	常置委員会	主事 司祭 永谷 亮	副主事 高橋 愛 職員 出町勇人、宮本道子
宣教活動推進部	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 飯野正行、司祭 池田 亨、 司祭 大町信也、司祭 木村夕子、 司祭 永谷 亮、司祭 松井新世、 司祭 上平 更 佐藤忠志、福富牧子、宮本道子、土橋芳美、 城石梨奈、丸山悦子、矢部幸子、山本修嗣、 山崎典美、高橋 愛
財政部	常置委員会	橋本知樹	鈴木幸夫、横山光紀
神学生養成委員会	常置委員会	福富牧子	
歴史文書保管委員会	常置委員会	下田尊久	司祭 池田 亨、執事 三浦千晴、山本修嗣、 佐藤さつき、夏堀恭子
北海の光編集委員会	常置委員会	司祭 池田 亨	執事 三浦千晴、佐藤さつき、山崎恒子、 吉谷かおる
教区宣教150年実行委員会	常置委員会	司祭 吉野暁生	丸山悦子、大友 宣、高橋 愛、鈴木幸夫、 全教役者、教区事務所主事
分区長 道 央	教区主教	司祭 池田 亨	
分区長 道 南		司祭 松井新世	
分区長 道 東		司祭 飯野正行	
分区長 道 北		司祭 下澤 昌	
聖職養成委員	教区主教	司祭 大町信也	司祭 下澤 昌
聖職試験委員	教区主教	司祭 下澤 昌	司祭 池田 亨、司祭 大町信也
教役者子弟育英資金	教区主教	教区主教	財政部長、教区事務所主事、三溝千春
主教座聖堂		教区主教	常置委員、札幌キリスト教会牧師、 同教会委員会

委員(部)会名		選出者	長	委員・部員名
チャプレン教区婦人会		教区主教	司祭 池田 亨	
〃 財 政 部			司祭 永谷 亮	
〃 青 少 年			司祭 永谷 亮	
〃 G F S			司祭 木村夕子	
東日本宣教協働区 協働委員会		常置委員会		主教 笹森田鶴、司祭 大町信也、大友 宣
チー ム 北 国 (東北教区・北海道教区) (宣教協働タスクチーム)		常置委員会		コアメンバー 司祭 大町信也、大友 宣、吉谷かおる セクションメンバー 執事 三浦千晴、丸山悦子、和田啓祐、 司祭 木村夕子、鈴木 康、司祭 永谷 亮 橋本知樹、高橋 愛
管 区 関 係	日 本 聖 公 会 総 会 代 議 員	教 区 会		司祭 木村夕子、執事 三浦千晴 大友 宣、吉谷かおる
	日本聖公会常議員	管区総会		主教 笹森田鶴
	祈祷書改正委員会	常 議 員 会	主教 笹森田鶴	司祭 永谷 亮
	礼 拝 委 員 会		主教 笹森田鶴	
	青 年 委 員 会			司祭 上平 更(担当主教 主教 笹森田鶴)
	女 性 デ ス ク			吉谷かおる
	ジェンダープロジェクト			司祭 永谷 亮、加藤 光
	原発問題プロジェクト			尾関敏明
	管 区 審 判 廷	管 区 総 会		司祭 下澤 昌
聖公会保育連盟	教 区 主 教		渡部良子	
管 区 議 員 会 教 区 連 絡 担 当	青 年 委 員 会	常置委員会	高橋 愛	
	正義と平和委員会		山崎典美	
	人権問題担当者		上村裕子	
教 区 関 係 団 体	NPO法人ファミリー サポート聖十字ひろば		理事長 池田亨	理事 永谷 亮 監事 出町勇人
	社会福祉法人 聖公会北海道福祉会		理事長 笹森田鶴	理事 大友正幸、下澤 昌、吉谷かおる、 矢部幸子、高橋久美子 監事 高田鎮通、小貫晃一
	学 校 法 人 聖公会北海道学園		理事長 笹森田鶴	理事 渡部良子、鈴木典明、菊地和子、 大友正幸、遠藤淳治、広谷和文 監事 能登 晟、山崎典美
教 区 協 力 団 体	教 区 婦 人 会		札幌キリスト教会	
	教 区 G F S		支部長 小澤暢子	
	マ ル タ 会		主事 司祭 永谷 亮	高橋 愛
他 協 力 団 体	ホ レ ン コ 幹 事		司祭 池田 亨、横山由紀子	
	北 海 道 外 キ 連		司祭 大町信也	
	刑 務 所 教 誨 師 (カッコ内は 所 属 刑 務 所)		司祭 飯野正行(網走)、司祭 松井新世(月形)、 司祭 吉野暁生(釧路)、司祭 永谷 亮(月形)	



▽旭川聖マルコ教会

冬將軍の最後のあがきで寒さの戻った旭川ですが、「春は光から始まる」です。光のイースターまであと一ヶ月、健康に過ごしましょう。

二月一日、堅信受領者総会が開かれ、「地域に向かつて活動する教会」としてバザー開催について考えを出しました。婦人会は保育園のおやつ作りをはじめ、世界祈禱日参加の準備をしています。壮年は各々の賜を生きかし陰に陽に活動しています。二月最終主日礼拝後は宣教一五〇周年記念聖歌を聞きました。これから練習が始まります。全道のみなさん、記念礼拝で一緒に賛美しましょう。

保育園は父母の会主催餅つき大会や冬の動物園を楽しみ、今は修了の時期を迎え『大きく変わったよ』の会の準備中です。

▽岩見沢聖十字教会

暖かな二月の岩見沢。今季は暖冬少雪のようです。

愛する管理牧師の池田亨司祭が体調を崩されて二カ月。教会の総会は議長不在の為、文書総会になりました。回復しますように神癒を期待します。

一八日、横山明光司祭司式による聖餐式。二〇一一年四月から三年間、教会の牧師と園のチャプレンを務められたお馴染みの司祭です。奥様の由紀子姉も出席されて懐かしい話に花が咲きました。お二人とも変わらずお元気でしました。三月は二回もご奉仕をしてください。

▽小樽聖公会

二月四日(日) 顕現後第五主日聖餐式。池田司祭、司式・説教担当。その後、「信徒総会」。無事終了。九日(金)池田司祭、市内総合病院へ入院。検査の結果、背骨の骨折が判明。二〇日(火) 骨折部

分をステントで支える手術を受ける。術後の回復を待ち、なお治療とリハビリを受ける予定。

二三日(金) 教区一五〇年

事業として小樽聖公会を会場に黙想会を開催。約三〇名の出席。笹森主教さまの黙想指導により心を神に向け沈黙の時を過ごす。

二五日(日) 大斎節第二主日。松井新世司祭の応援にて聖餐式。その奉仕に感謝。

▽釧路聖パウロ教会

光陰矢の如し。年が明けてからはや二カ月が経とうとしています。寒さと暖かさが

▽厚岸聖オーガスチン教会 (伝道所)

往ったり来たりする中、二月四日の顕現後第五主日は礼拝堂で。また翌週の斎節前主日は集会所で。礼拝場所の移動にも戸惑いはなく、皆大分慣れてきました。

一一日が日本聖公会の創立

記念日ということを知り、新鮮な気持ちに。また、礼拝後には恒例となった「教会問答あれこれ」の勉強会。「日没から一日が始まる」という創世記の理解はとて深い学び

になりました。

翌週は大斎節第一主日。礼

拝冒頭「灰の十字架の祝福の祈り」で、棕櫚の十字架の「灰」による十字架が信徒達の額に懺悔の印として刻まれました。厳粛な儀式でした。礼拝後には吉野司祭のギター伴奏で「小さなテゼの歌による黙想会」。身も心も洗われた時間でした。ただ、冬はやはり礼拝参加者が減ります。主よ、み力を。

▽帯広聖公会

二月としては記録的な暖かい日が続きましたが、お決まりの春のドカ雪にも見舞われました。一日の主日礼拝後、二〇二四年堅信受領者総会が行われました。各部からの昨年の活動報告そして今年の計画が示され、全ての議案が承認されました。当教会では昨年一二月から毎月第一主日の大町司祭の説教をビデオ録画し、教会HPに掲載しております。教区HPから教区内各教会の一覧より帯広聖公会のHPに入り「ビデオのページ」を選択しますとご覧頂けます。PCは勿論スマホでも視聴可能です。是非ご活用く

ださい。

▽稚内聖公会伝道所

二月八日、久しぶりの礼拝を持ちました。出席者は司祭と信者さんの二人。机を囲んで厳かに、しかしフレンドリーな雰囲気でした。外は相変わらずの風雪ですが、礼拝堂のストーブの前の私たちは、聖霊の炎の暖かさに包まれた感じ。雪が溶け、車で行けるようになれば、時間にとりもできます。本当に春が待ち遠しい稚内です。これからもお祈りで支えて下されば幸いです。

▽苫小牧聖ルカ教会

暖冬ゆえだろうが、朝に「うん」と背を伸ばして起きる日が数日あった。二月から教会の礼拝時間の小さな変更があった。第二主日は午後二時からと。一八日は礼拝前に灰の十字架の塗布があり、塵から生まれたものであるという意識を持たされたひと時。聖ルカ幼稚園では、二二日、二二日とチャリティーコンサートを開く。沢山の来場者、募金が集まる。奉献先は能登半島の子どものため。

暖かくなったとよろこんで

いたら、今度は真冬の寒さと寒風にガタガタ震える。

春隣という言葉を知り、言葉に暖まる。

▽札幌キリスト教会

雪まつりが終わった途端に四月並みの気温や大雪で自然に翻弄されています。

四日は堅信受領者総会が行われました。いくつか意見は出たものの、最終的に議案は全て可決されました。昼食後のGFSの例会では、手作りパイの実と巨大チョコボールを作って食べました。一日は体調不良の永谷司祭に代わり阿部芳克司祭が司式説教をしてくださいました。感謝です。一日日に三浦慶姉が逝去され、苦小牧で葬儀が行われました。姉の魂の上に平安がありますように。

▽札幌聖ミカエル教会

進級・進学・就職の季節、何度かの大雪に見舞われながらも教会を訪問される方は常にあり、祈りの家として整えてお待ちしています。二月一四日夜七時に礼拝堂に集い、荘厳な気持ちの中で大斎始日を迎えました。額に十字のしるしをつけ、キリストの

受難を思いつつ、自らを省み、復活日の喜びの日を待ち望みます。幼稚園舎の入口には雛壇が飾られてひな祭りの準備が整いました。三月は進級・卒園の時期、子どもたちも新しい学年に進むため鋭意準備中。二六日、お母さんたちのゴスペルサークルからもプレゼントの歌を披露いただき、子どもたちも一緒に元気な歌声を礼拝堂に響かせました。

▽新札幌聖ニコラス教会

二月に入りましたが連日の大雪で雪かきを毎日している気分です。まだ先の話ですが第四主日の聖餐式をお守りくださっていた松井新世司祭は函館聖ヨハネ教会協働司祭に任命されます。一年の間礼拝の司式また礼拝後の聖書を読む会に参加頂戴有難う御座いました。

教会委員会では信徒総会に向けての準備に明け暮れていました。今回初めて定住の牧師が居ない中での準備となり、解らない事だらけでしたが、逆に今まで牧師先生に任せっきりだったのを反省すること頻りです。

▽聖マーガレット教会

二月二日、朝の礼拝(被献日礼拝)を当教会婦人会数名で行う。二月四日第一主日礼拝後、現在堅信受領者総会開催、全ての議案が可決され、ことに教会墓地管理規定が新しくなりました。教会礼拝堂のストーブが(二〇年以上経過)新しく設置されました。二月二三日、小樽聖公会にて教区宣教一五〇年記念黙想会に参加。またグッズ取り扱い始める。能登半島地震支援金は教区を通して被災地に届ける。本年度の人事異動の公示。大斎節(三月三日)後の礼拝、行事予定を週報にて報告。

▽函館聖ヨハネ教会

一〇日に上平司祭より四月から木村司祭に加えて松井司祭が協働司祭になられる予定との報告があり一同感謝。一日聖餐式、ほかの主日は信徒奉事者によるみ言葉の礼拝。聖書輪読会は藤井直さんを中心に隔週水曜日に開催。一六日ハンナ奈良廣子さん

(九四歳)の葬送式が上平司祭によって行われた。一八日には大斎始日のお祈りをし、信徒奉事者より灰の十字架のしるしを受けた。二五日国際ギデオンの協会函館支部長ご夫妻が来教、活動の詳細をビデオ報告、本教会への配布用聖書が贈呈される。修学旅行生から求められることがある。感謝。当教会聖歌隊が各教会の練習用として録音した教区宣教一五〇年記念聖歌「ピッカ・レラ・モシ」のCDを七月の記念礼拝に向けて、聖餐式の時は陪餐後に、み言葉の礼拝の時は奉献時に流して親しんでもらうことになった。

▽平取聖公会

二月二五日は笹森主教の巡回があり礼拝の司式説教をして下さいました。この日は洗礼準備をしてこられた日高町富川にお住いの木村詔子さんが内海司祭から洗礼を、続いて笹森主教から按手を受けられました。教名はサロメです。詔子さんは先年天に召された信徒の渡辺トミエさんの娘さんで、町内上貫気別小学校の校長をされていた渡辺誠伝

道師のお孫さんに当たります。今回の洗礼は内海司祭が平取聖公会に赴任してから一四年目で初めてのことでした。当日は新冠の教会の教友やバチラー保育園の職員と詔子さんのご家族も出席され、久しぶりに大勢の礼拝でした。

▽紋別聖マリヤ教会

二月に入り、オホーツク海を埋め尽くした冬の風物詩、「流水」が到来して本格的な寒さが続く毎日。四日、越山司祭による聖餐式。礼拝終了後、堅信受領者総会が行われ今後の予定を協議しました。一日、東京から観光に訪れていた司祭のご友人が来会、開催中であった紋別流水まつりなど冬の北海道を満喫されておりました。昨年の降誕日礼拝に加わっていただいた教友が来会、聖歌も一段と響き渡りました。

▽有珠聖公会

二月二五日、聖餐式にて灰の十字架をいただく。初めての経験の信徒も多く、平和の挨拶では、互いの顔を見合わせて噴き出す一コマも。今年、有珠にしては雪の

今年、有珠にしては雪の

多い年でしたが、春の訪れは日に日に近づいており、カムイタツコブ(教会の建つ丘)の木々も冬芽を膨らませ、その上を北に帰る準備の白鳥が、列を作って飛んでいます。

た事、新しく始める事、今年も少ない人数で進めてゆくことが決議されました。また町の方から歴史的建造物保存の話があり、夏頃に専門家を連れて来た時には皆さんで協議することになりました。

託司祭派遣の主教諮問に諒承と委員答申す。冬期間大礼拝堂から集会室へ主日礼拝会場を移して暖をとる。二月九日にはユリウス暦を感じる。

す。二八日のペテロの会、讚美の時と会堂の掃除、男性が加わり大きな力が与えられています。司祭のオホーツク三教会の働き、信徒一人一人の生活と奉仕に主のお守りと導きを祈ります。飯野姉は東北教区婦人会でズームでお話しされ、和田姉は小樽での黙想会に出席されました。

両日は二月にしては珍しく雪のない礼拝日でした。乾いた路面を教会に向かつて車を走らせていると、餌を求めてエゾシカや北へ帰る白鳥が羽根を休めている姿を目にする事があります。

▽留萌キリスト教会

冬將軍や暴風雪が長逗留するのが常の真冬の留萌に、四月並みの暖気が訪れました。明るい陽射しは笹森主教の巡回を歓迎する大地の営みのように感じられました。体調を整えていた信徒や教友らも礼拝に集い、大齋節第一主日の聖餐式を共にしました。

二月二四日大齋節第二主日の礼拝は、遠路はるばる帯広より大町司祭にお越しただき、大変感謝しております。この先この広大な北海道を少ない人数でまわらなければならぬには限界があるはずで、ひとつひとつ決断をしながら続けてゆかなくてはと思っております。どうか皆様の健康が守られますように願っております。

除雪機の出動はまだ一度、あとはママさんダンブでさつとするのみの北見です。

高齡信徒の多い当教会に於いては雪の少ない室蘭は本當に助かります。司祭が少ない関係で礼拝も主日とは限りません。二月三日(土)に顕現後第五主日の聖餐式がありました。礼拝後今月の予定について話し合いがなされました。二月一〇日(土)も大齋節前主日の礼拝が守られました。二四日(土)大齋節第一主日聖餐式礼拝後、ささやかでしたが信徒総会が開かれました。また藤井扶美子姉の逝去三周年のお祈りがありました。人事異動で松井司祭が函館聖ヨハネ教会の協働司祭に任命されました。

その翌日の二六日は思いもよらぬ大雪に見舞われ朝から雪かきとなりました。

▽今金インマヌエル教会

いつもより雪が少なめな今金。この分だと春耕期も早くなりそうです。二月一一日大齋節前主日の礼拝。その後上平司祭を議長として総会が進められました。昨年やり残し

二月の保育園の礼拝・光の子の時間ではイスラエル・ハマス戦争の和解を祈り聖歌隊によりヘブライ語の平和の歌をうたう。四日委員会で委員の定数が議論される。一八日礼拝で「灰の水曜日」の灰をひたいに十字架としてします。婦人会では元ドイツ首相アンゲラ・メルケル女史の「わたしの信仰」を輪読。日聖婦への補助金申請の相談す。囁

海外からの観光客でにぎわっている網走の冬もそろそろ終わりそうです。一日の新年度の信徒総会では一年間の会計や歩みについて話し合い、自ら出来る事を感じつつ歩んでいけたらと思いま

▽新冠聖フランシス教会

二月一一日、二月二五日の

